

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成28年4月7日 (2016.4.7)

【公開番号】特開2012-111948(P2012-111948A)

【公開日】平成24年6月14日 (2012.6.14)

【年通号数】公開・登録公報2012-023

【出願番号】特願2011-271709(P2011-271709)

【国際特許分類】

C 1 1 B	9/00	(2006.01)
A 6 1 K	8/34	(2006.01)
A 6 1 Q	11/00	(2006.01)
A 6 1 Q	5/12	(2006.01)
A 6 1 Q	19/00	(2006.01)
A 6 1 Q	19/10	(2006.01)
A 6 1 Q	17/04	(2006.01)
A 6 1 K	9/48	(2006.01)
A 6 1 K	47/10	(2006.01)
A 2 3 G	4/00	(2006.01)
A 2 3 L	27/20	(2016.01)

【F I】

C 1 1 B	9/00	D
A 6 1 K	8/34	
A 6 1 Q	11/00	
A 6 1 Q	5/12	
A 6 1 Q	19/00	
A 6 1 Q	19/10	
A 6 1 Q	17/04	
A 6 1 K	9/48	
A 6 1 K	47/10	
A 2 3 G	3/30	
A 2 3 L	1/226	D

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年2月12日 (2016.2.12)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、主として新規な混合物に係り、該混合物は、該混合物の全質量に対して、以下の成分：

- ・全体として72.0～85.0質量％なる範囲の量の、ラセミ型d,l-メントールおよび随意的付随的なl-メントール；
 - ・7.5～20.0質量％なる範囲の量のd,l-イソメントール；
 - ・全体として7.0～11.0質量％なる範囲の量の、第一のアルキレンジオールおよび随意的1種のまたは複数の更なるアルキレンジオール；および
 - ・全体として0～2.0質量％なる範囲の量の更なる成分；
- を含むか、またはこれら成分のみからなり、また以下において「常圧」とも呼ばれる1013

25Paなる圧力および20 またはそれ以上の温度にて液体である。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0002

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0002】

本発明は、更に(i) 本発明の混合物および更なる成分を含むか、あるいは(ii) 本発明の混合物および更なる成分を混合し、あるいはこれら成分を相互に接触させることにより製造できる生成物にも係り、ここで該生成物の更なる成分は、メントールおよび/またはイソメントールを含まず、また好ましくはアルキレンジオールを含まないものである。

本発明は、更にメントール-含有製品、好ましくは本発明による生成物を製造するための方法にも係る。

本発明のもう一つの局面は、第一のアルキレンジオールおよび随意の1種または複数の更なるアルキレンジオールと混合されたd,l-イソメントールの、場合により付随的なl-メントールの存在下で、該d,l-メントールの融点を、101325Paなる圧力にて、即ち常圧下で、好ましくは20 またはそれ以下の温度まで下げるための手段としての使用に関する。

本発明の更なる局面は、以下の説明、例示的实施態様および添付した特許請求の範囲から理解することができる。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0011】

イソメントールは、明らかに、官能的目的に対して、d-ネオメントールよりも適切なプロフィールを持つ(上記記載を参照のこと)が、メントールの融点よりも実質的に高い融点を有している。即ち、(本発明の混合物中に含まれているような)d,l-イソメントールの融点は、52~53 なる範囲内にあり、d-イソメントールの融点は、実に82.5 である(Beilstein, Hdb. Org. Chem., 第4版, 第2追補, Vol. VI, スプリングーベルリン(Springer Berlin), 1944, p.51)。従って、7.5~20質量%なる範囲の量でd,l-イソメントールを含む、(上記の如き)本発明の混合物は、常圧、20 なる温度において、既に液体状態にあることは、予想もされなかった。特に、d,l-イソメントールの添加が、d,l-メントールおよび随意の付随的なl-メントールを含有する混合物の融点を、所定の程度まで低下するのに寄与し得ることは予想もされなかった。比較例において我々が確立したように、50質量%のd,l-メントールと50質量%のd,l-イソメントールとの混合物(付随的な溶媒なしに)は、36.5 なる融点を持つ。80質量%のd,l-メントールと20質量%のd,l-イソメントールとの混合物(付随的な溶媒なしに)に関して、常圧におけるその融点は、34.5 であることが分かった。25~50質量%のl-メントール、65~40質量%のd,l-メントールおよび10質量%のd,l-イソメントールを含む混合物の融点も、我々独自の検討によれば、同様に33~34 なる範囲内であった。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

特に、d,l-メントールおよび場合により付随的なl-メントールを含む混合物の融点が、7.5~20質量%のd,l-イソメントールおよび更に7.0~11質量%のアルキレンジオールを添加することにより下げることができ、結果として(本発明による)混合物が得られ、この混

合物が、常圧(101325Pa)の下で、20 なる温度において既に液体状態にあることは驚くべきことであった。このことは、例えばd,l-メントールに対する10質量%の1,2-プロピレングリコールの添加が、最大で10 の融点降下を導くに過ぎず、またd,l-メントールとl-メントールとの共融混合物に対する10質量%の1,2-プロピレングリコールの添加が、最大で7 の融点降下を導くに過ぎないことから、驚くべきことである(以下に与えられる実施例1.2および1.3を参照のこと)。

(本件明細書に記載されるような)本発明の混合物に関して、その融点は、有利には、追加のd,l-イソメントールを含まない、l-メントール(および場合によりd,l-メントール)およびプロピレングリコールの混合物に対して、約15 またはそれ以上低下する。

本発明の目的にとって、特に、d,l-メントールおよび場合によりl-メントールの合計量に対するd,l-イソメントールの量は、5~25質量%なる範囲にあることが好ましく、該d,l-イソメントールの量は、より好ましくは10~20質量%なる範囲にある。7.5~10質量%のアルキレンジオール、例えば1,2-プロピレングリコールとの組合せにおいて、本発明の混合物が有利に得られ、その融点は実に20 以下である。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0018

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0018】

好ましくは、該製品は、着香剤、化粧用剤、栄養摂取および/または快適さを得るために使用される調製物(例えば、タバコ製品)、好ましくは直ぐに消費または使用できる調製物、特に飲料および咀嚼可能な食糧品、特にチューインガムおよび咀嚼性スイーツ(例えば、清涼性スイーツ)、口腔衛生製品および歯科衛生製品、特に練歯磨粉および歯科衛生用チューインガム、香料(芳香放出性物質の混合物)、医薬品および皮膚科学的製品、カプセル化されたメントール-含有調剤、家庭用品からなる群から選択される。

医薬品および皮膚科学的製品および化粧用調剤において、好ましくは本発明の混合物は、浸透増強剤として機能する。浸透増強剤は、活性物質の皮膚障壁またはその部分への浸透性、または活性物質の皮膚障壁またはその部分に対する透過性を改善する物質である。ここで、該皮膚障壁またはその部分とは、特に角質層である。

従って、本発明の製品は、第一の局面によれば、好ましくは着香剤であり、これは本発明の混合物とは別に、1種または複数の更なる成分、1種または複数の更なる着香物質を含む。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0032

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0032】

更に、101325Paなる圧力、即ち常圧において、および20 またはそれ以上の温度において液体状態にある混合物、またラセミ型d,l-メントールおよび場合により付随的なl-メントールを、該混合物の全質量に対して72.0~85.0質量%なる範囲の量で含む該混合物、また好ましくは(上記の如き)本発明による混合物の製法であって、以下の諸工程：

- ・全体として72.0~85.0質量%なる範囲の量の、ラセミ型d,l-メントールおよび場合により付随的なl-メントールを準備または調製する工程；
- ・該ラセミ型d,l-メントールおよび該随意的付随的なl-メントールを、以下の成分：
 - ・7.5~20.0質量部なる範囲の量のd,l-イソメントール；
 - ・全体として7.0~11.0質量部なる範囲の量の、第一のアルキレンジオールおよび随意的1種または複数の更なるアルキレンジオール；および
 - ・全体として0~2.0質量部なる範囲の量の、更なる成分

と混合する工程を含み、ここにおいて該質量部で表された量が、該混合物の全質量を基準とするものであり、また得られる該混合物が、101325Paなる圧力および20 またはそれ以上の温度にて液体となるように、前記割合が調節されることを特徴とする、上記方法が好ましい。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0034

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0034】

上記d,l-メントール対l-メントールの質量基準での比が、1:4よりも大きく、好ましくは1:2よりも大きいような、上記の如き本発明の方法が、特に好ましい。更に、上記のようなd,l-メントール対l-メントールの質量比に関する上記事項は、相応的にここでも当てはまる。

本発明のもう一つの局面は、第一のアルキレンジオールおよび随意の1種または複数の更なるアルキレンジオールと混合されたd,l-イソメントールの、場合により付随的なl-メントールの存在下で、該d,l-メントールの融点を、好ましくは101325Paなる圧力にて20またはそれ以下の温度まで下げるための手段としての使用に係る。

医薬製品において、本発明による混合物は、例えば浸透増強剤として作用する。従って、本発明のもう一つの局面は、本発明による混合物の、浸透増強剤としての使用に係る。